



学校教育目標 「生命(いのち)輝く子どもを育てる」  
 一心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつ」



# とてひの かふち

## 《学校だより》 第17号

令和3年12月24日発行  
 湯河原町立湯河原小学校  
 校長 北村和裕

令和3年が終わろうとしています。今年は、夏に東京オリンピックがあり日本中が盛り上がった一方で、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症が広がり、その対応に追われた1年でもありました。修学旅行の2度の延期、規模を縮小しての運動会など、学校でも感染症対策を踏まえながらの教育活動を進めてきました。保護者の皆様には、ご家庭での子どもの体調管理、検温などいろいろな面でご理解、ご協力いただき感謝の念に堪えません。

年が明けても、コロナ感染症対応はまだまだ続くでしょうが、知恵を出し合い、心を1つにしてみんなで乗り切っていきましょう。よいお年をお迎えください。

## 「芸術の秋」ではなく 『芸術の冬』

12月15日(水)・16日(木)・17日(金)と3日連続で体育館が芸術の舞台となりました。15日は6年生が「狂言」を鑑賞し、16日は上学年、下学年に分かれての「芸術鑑賞会」、そして、17日が関西フィルハーモニー管弦楽団のワークショップです。子どもたちは「本物」の磨かれた技術にふれ、心を揺り動かされました。

### 狂言

6年生は、国語で「柿山伏」という狂言の学習をします。湯河原町でも公演や狂言教室をされている能楽師の大蔵彌太郎さんが来校され、狂言の特徴やおもしろさを伝えていただきました。実際に演じると、体育館中に響き渡る声の迫力と独特の動きに子どもたちは驚き、700年前から続く「狂言」の世界に引き込まれていきました。日本の伝統芸能の魅力をたっぷりと味わうことができました。



### 芸術鑑賞会

「リズムファンタジー」という4人のグループの方が、「ルパン三世」などおなじみの曲を次々に披露し、子どもたちは曲に合わせて手拍子をするなど大いに盛り上がりました。マリンバを4人で同時にたたいて演奏したり、デッキブラシやしゃもじなど身近な物も楽器にして演奏したりしてしまうなど、音楽の面白さや不思議さ、楽しさが満載の素敵な時間でした。



### ワークショップ

2月に約70名の関西フィルハーモニー管弦楽団が来校しコンサートが開かれます。今回のワークショップでは、70人がどんな楽器を使って演奏するのかを紹介したり、バイオリンの演奏をしてもらったりしました。バイオリンの澄んだ音色に心が癒やされるようでした。2月のコンサートがますます楽しみになってきました。



## タブレットPCの持ち帰り ご家庭でもチェックを

この冬休みも、夏休みに引き続いて各学年ともにタブレットPCを持ち帰り学習を進めます。学校では、これまでにいろいろな学習の場面でタブレットPCを活用してきました。と同時にタブレットPCの正しい使い方、モラルの面でも力を入れて指導しています。例えば、相手が不快な思いをすることを書き込まない、個人情報やインターネット上にあげない等です。家庭に持ち帰った場合、学習活動のために使う、使う時間帯を決める、家の人の目の届くところに置く等のルールを守ることは大変重要です。ご家庭でもお子さんの使い方を見守っていただき必要に応じてご指導くださるようお願いいたします。情報モラル、マナーを教えるチャンスです。

## 地域清掃

12月9日(木)の2時間目に、6年生は五所神社の清掃を行いました。五所神社の宮司さんや宮下老人会会長さんのお話に続き、10名ほどの老人会の方が自己紹介をされました。そして、いろいろな場所に分かれて落ち葉を集めていきました。12月とは言え落ち葉はいろいろなところにあり、老人会の人たちと協力しながら集めていきました。

地域の中で育ち、日頃から地域の方々にお世話になっている子どもたちが、少しでも地域に恩返しができればと思いながら取り組んだ活動でした。



老人会の方と力を合わせて

(その他、子どもたちの様子は学校のブログに掲載中)

<https://www.yusho.site/>